

アメリカ合衆国バーモント州にて 1923 年関東大震災支援に対する日本からの感謝状を確認・撮影しました (2023/8/4-5)

テーマ：関東大震災、感謝状、日米関係、国際防災、歴史学
会場：アメリカ合衆国 バーモント州 プリマスノッチ

1923 年関東大震災は、壊滅的な被害を日本の首都圏中心にもたらした一方で、海外の多くの国々から被災した日本へ支援も寄せられました。第 30 代カルビン・クーリッジ米国大統領のもと、1200 万ドルの国際支援が行われたのはその国際支援の代表例で、震災復興後の 1930 年、日本から米国に答礼使節も派遣されています。しかし、当時の国際支援やその応答に関する実態は、未だ十分に明らかにされていない状況です。

2023 年 3 月に仙台にて実施された世界防災フォーラム 2023 において、クーリッジ大統領のこの国際支援について焦点を当て、米国より関係者を招聘した際に、「1923 年の関東大震災後、クーリッジ大統領へ日本から感謝状が送られていたこと」および「その原本をクーリッジ大統領の子孫が保管していること」が明らかになりました。この感謝状はいまだ研究対象になったことがなく、極めて貴重な一次資料と考えられます。

これを受けて、当研究所の小野裕一教授（2030 国際防災アジェンダ推進オフィス）、川内淳史准教授（歴史文化遺産保全学分野）、中鉢奈津子特任准教授（広報室）、吉野賢世界防災フォーラム事務局長、小野天椰共同研究員（2030 国際防災アジェンダ推進オフィス）からなる研究チームは、2023 年 8 月 4～5 日、アメリカ合衆国バーモント州にあるクーリッジ財団を訪問し、同財団事務所にて、当時日本から米国へ送られた感謝状を借り受けて確認し、デジタル撮影する作業を行いました。その結果、日本から送られた感謝状は約 750 通あり、3 冊に製本されていたこと、ほぼ全部が英語で書かれていたこと、差出人は日本全国の生徒や学生であったことなどが確認できました。

今後、研究チームは今回の知見をまとめ、関東大震災シンポジウム（9月28日）に発表し、さらに、デジタル化した感謝状の分析を進めていく予定です。



3 冊に製本された感謝状の確認



感謝状デジタル化作業の様子

文責：小野裕一（2030 国際防災アジェンダ推進オフィス）、
川内淳史（歴史文化遺産保全学分野）、
中鉢奈津子（広報室）、
吉野賢（世界防災フォーラム事務局）、
小野天椰（2030 国際防災アジェンダ推進オフィス）